

令和2年度奈良県学校・地域パートナーシップ事業にかかる調査結果

地域学校協働活動推進員等について

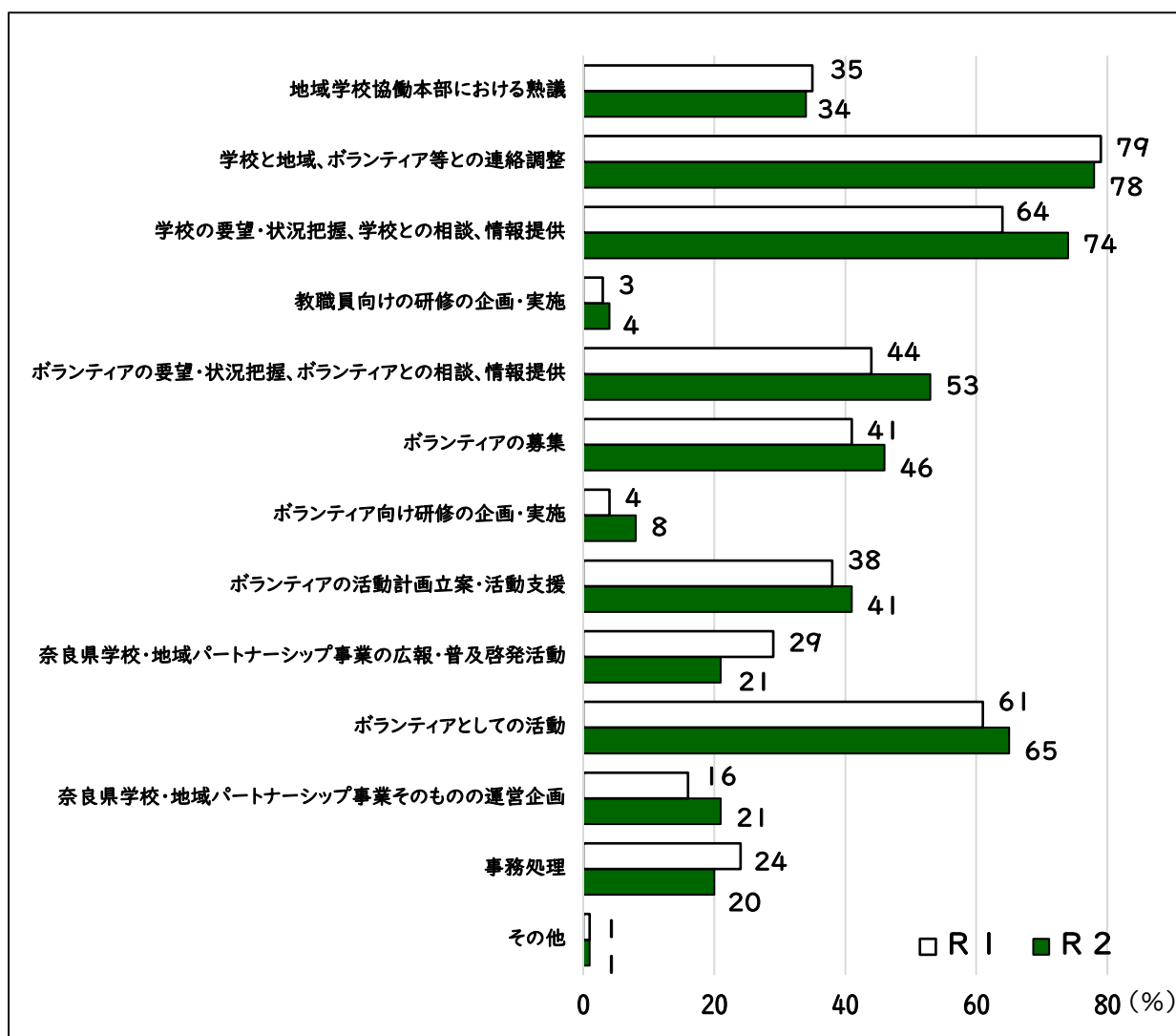
地域学校協働活動推進員等の活動状況について

(昨年度)

- (1) 1か月の平均活動時間数 9.1時間 (8.5時間) ※県平均値
 (2) 1か月の平均学校訪問回数 3.5回 (4.1回) ※県平均値

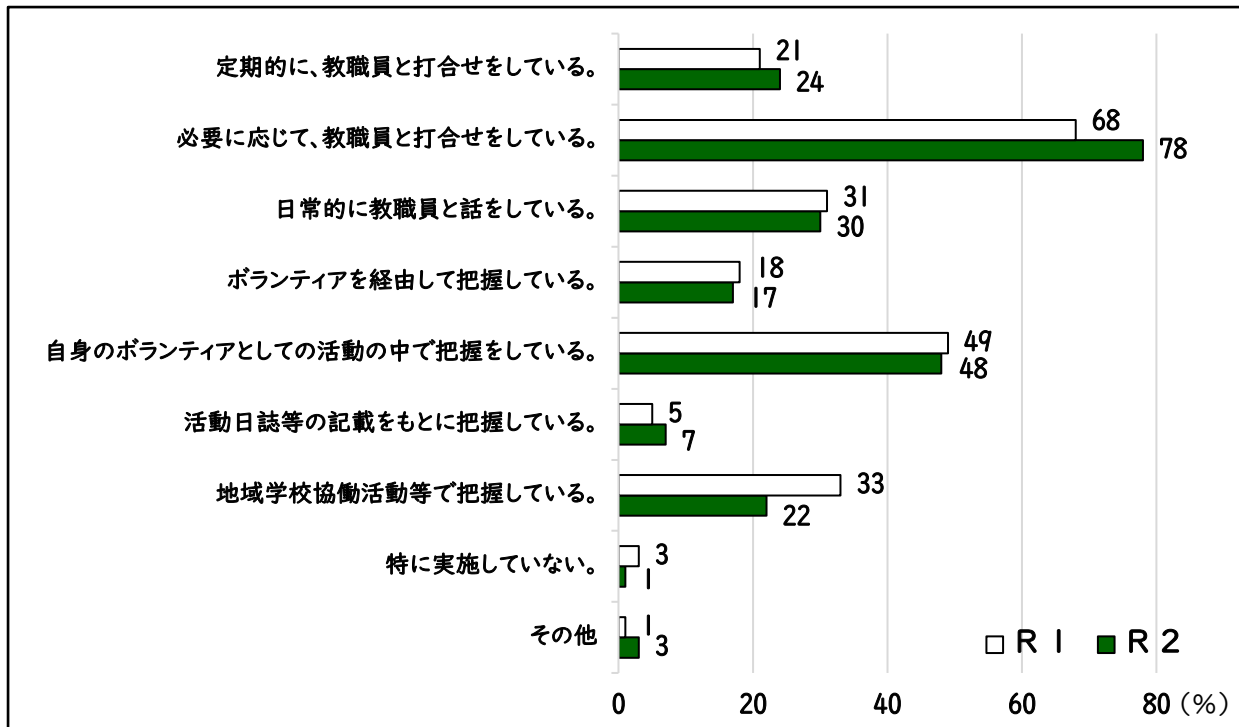
地域学校協働活動推進員等の活動内容について

◎地域学校協働活動推進員等として取り組んでいる活動内容（複数回答）



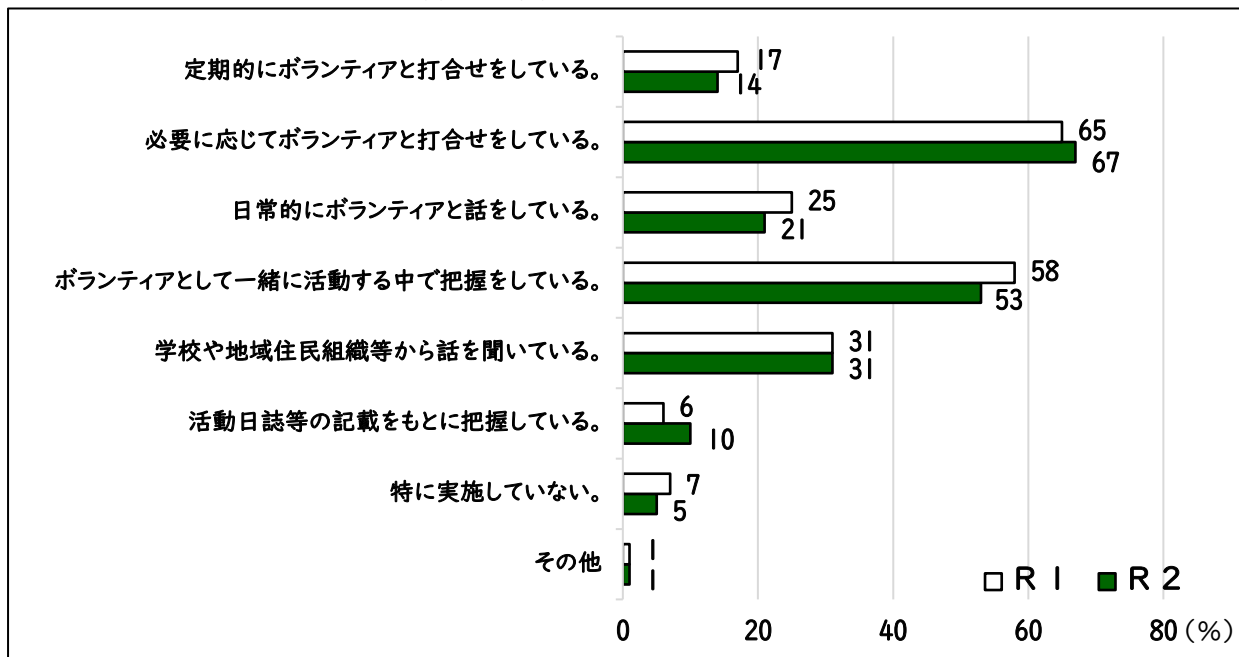
○地推員等として取り組んでいる活動内容は、自身のボランティアとしての活動だけでなく、学校と地域、ボランティア等との連絡調整、学校の要望・状況把握、学校との相談、情報提供など、多岐にわたっています。

◎学校の要望把握の方法（複数回答）



- 必要に応じて教職員と打合せをしている割合が最も多いですが、定期的に教職員との打合せをする中で要望を把握している割合が増加しています。
- コロナ禍で地域学校協働活動の実施ができなかった状況を反映しているのか、地域学校協働活動等を通して把握している割合が減少しています。

◎ボランティアの要望把握の方法（複数回答）



- ボランティアと、必要に応じて打合せをしたり、一緒に活動する中で要望を把握したりしている割合は、前年度同様に高いですが、本年度は活動日誌等の記載をもとに把握している割合が増加しています。

地域学校協働活動推進員等としての役割が認知されてきています。

- 自らのボランティアとしての活動だけでなく、学校と地域、ボランティアの方々との間をつなぐ活動は、地推員等の基本的かつ重要な役割です。
- 地域学校協働本部及び学校運営協議会の場だけでなく、教職員やボランティアの方々と、日常的に連絡を取り合い交流することが大切です。コロナ禍において、参集しての会議等は難しいですが、ICTの活用も含め、学校と地域、ボランティアの方々との間をつなぐ活動をお願いします。
- 人と人とのつながりを広げるためにも、PTAなどへの学校・地域パートナーシップ事業の広報・普及啓発活動を積極的に進めていただくようお願いします。

その他（地域学校協働活動推進員等の意見）

- 多くの地域の方や保護者の方に本事業に関わっていただきたいと考えている。学校と目標を共有し、お互いに話し合い信頼し合える関係づくりは、子どもたちの成長のために大切なことだと常に感じている。
- 保護者や地域住民にパートナーシップ事業の存在を、もっとPRできるようにしていきたい。
- 地域と学校が連携して地域の子どもを育てるという活動が、子どもや保護者、教員に具体的に見える活動を考えたい。
- 学校でのボランティア活動が、地域の方々の交流の場となるようにしていきたい。
- 今後、コロナ禍での地域学校協働活動の実施を考えていくためにも、学校の実情と地域の思いをしっかりとすり合わせることの重要性を感じている。
- 新型コロナウイルス感染症対策を考えると、高齢のボランティアが多く、今後の活動の難しさを感じている。
- コミュニティ・スクール導入により、パートナーシップ事業の方向が変わるのではないか？等の疑問や不安がボランティアの方々にある。十分な説明が必要だと感じている。
- その他、事業継続の要望など。